

紛争地に生きるということ

イエメン・パレスチナと私たち

戦争や紛争の火が世界中に広がる気配のなかで、日本もその火中に巻き込まれる可能性も高まっています。紛争地に生きる人びとがどのように暮らし、その暮らしがどのように破壊されているのかを、まず知ることが必要ではないでしょうか。紛争地に生きる人びとへの支援を長年続けてきた日本ボランティアセンターの貴重な体験報告から学びます。(講師紹介は裏面)

2026年7月25日(土) 14:00~16:30

第1回 イエメンで生きるということ

2015年から続く内戦により、イエメンでは「平和」を知らずに育つ子どもが増えています。厳しい避難生活や紛争のトラウマ。JVCは子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを行っています。紛争下で生きる子どもたちの現状と支援の取り組みをお伝えします。



8月29日(土) 14:00~16:30

第2回 パレスチナで生きるということ

2023年10月以降、ガザでは攻撃と深刻な食糧不足が続く、今も状況は変わっていません。25年以上ガザで活動してきたJVCが、ガザの今と日本からできることを伝えます。ガザからの声を聞いてください。



9月26日(土) 14:00~16:30

第3回 避難民・難民と日本で生きる私たち

武力紛争や乱開発によって自然や社会を破壊され、住み慣れた土地から引きはがされた人びと—現在毎時1000人を超える人々が難民化していると言われます。世界の餓死者は日に3万人とも。イエメンとパレスチナの武力紛争はなぜ起こるのか？ この問題と日本のかかわりを振り返ります。



会場: 柴中会公会堂 (立川市柴崎町3-9-11)

参加費: 1回1,000円 3回前納2,700円

(シビル会員 1回800円 3回前納2,200円)

定員: 30人(要予約)

主催: 一般社団法人 市民の学習・活動・交流センター シビル

東京都立川市柴崎町3-10-4

042-524-9014



講師紹介

第1回 後藤美紀さん(スーダン・イエメン事業担当)

2022年JVCに入職。2022年～2024年までラオス・スーダン事業を、2024年からはイエメン・スーダン事業を担当。ラオスでは村人の共有資源と権利を守る活動に携わり、現在はスーダン・イエメンにて紛争の影響を受ける子どもたちのための教育支援に従事している。

第2回 高橋千紘さん(パレスチナ事業担当)

2025年3月、パレスチナ事業担当としてJVCに入職。それぞれの声を繋ぐつなぐことを大切に、ガザの栄養支援・医療支援、東エルサレムの青少年支援を東京から支える。

第3回 木村 茂さん(広報担当)

2002～2003年、JVCタイの現地駐在スタッフとしてチェンマイで調査活動。その後、タイで農村開発NGOを主宰し、2015年に帰国。同年からJVCのラオス事業、2020年から広報を担当。JVCの活動や、国際協力、国際人権、農村開発などに関する講演や、会報の編集などに携わる。

日本国際ボランティアセンター (JVC)

日本国際ボランティアセンター(JVC)は、アジア諸国で起こる戦争や難民の問題をニュースで見た市民による、「居ても立っても居られない」想いと行動から、1980年2月、タイのバンコクで生まれた国際協力団体。JVCはボランティアを「無償の人材」ではなく、自発的につながり、支え合いたいという意志から「自発的に動く人」として捉えている。問題が生まれる構造そのものを変えるためには、現地の人と共に活動し、社会が変わる仕組みを創っていく人が、この世界にたくさん必要だ。支援のプロとしてではなく、まずは「市民」と「市民」として向き合う人々が集う「場」でありたい。そんな願いを、JVCは「ボランティアセンター」という名称に込めている。